

名前：Daryl Ahnaf Madeva

学生番号：2501413

大学名：Universitas Pendidikan Indonesia

「日本語を生かした将来のキャリアの希望」

初めて日本語を勉強したきっかけは、皆と同じようにアニメを見たことです。小学 6 年生の卒業の頃に、初めて勉強しました。それは COVID-19 が流行する前のことでしたが、その後、アニメへの興味がもっと深くなりました。COVID-19 の影響で、皆が家から出ないほうがよかったので、私は「Wibu Covid」と呼ばれるようになりました。

私にとって、日本語をマスターすることは夢です。でも、今は 6 年前と比べると、私の意欲はそんなに高くありません。「マスターになりたい！」という気持ちよりも、「やらないといけない」という気持ちになりました。

知っていることのほとんどは、自分で勉強しました。先生もいなくて、対面やオンラインの授業も受けず、たった一人で日本語について読んでいました。

書くことや聴解、会話などは勉強していませんでした。日本語能力試験（JLPT）を受けたのは、2 回だけです。2023 年と 2026 年に受けて、1 回目は N5、2 回目は N3 でした。初めて受けた理由は、ただ自分の能力と、どれくらい進歩したかを確かめたかったからです。2 回目は、友達に「参加しよう！」と言われたからです。両方の試験に合格できて嬉しかったです。

日本語について最も悩んでいることは、話しているときに文を作ることです。まあ、書いているときも難しいことがあります。私は文を作るとき、ただ自分が正しいと思う文を作ります。日本人や日本語をマスターしている人に見せたら、伝わらないかもしれないと思います。いつもこういう感じがします。私にとって、自然な日本語を理解することは少し難しいです。なぜなら、理解するときはいつも母語に翻訳していて、日本語として自然かどうかを考えていないからです。今の作文を書いているときも、自分の言い方で書いています。

今まで日本語を勉強して得られたことは、自分の未来について目標が見えてきたことです。ここまで、私の学習は非常に順調に進んできました。でも、私は他の皆と同じではありません。皆はコンテストに出たり、会話をしたり、実績を積んだりしていますが、私はそうしてきませんでした。今でもそうです。

だから、人生で負けた、勝ったという気持ちを経験したことはありません。

現在は、日本語の能力を生かして何をするか、まだ分かりません。でも、興味のある仕事はいくつかあります。その一つは、秘書になることです。他にも、似たような仕事かもしれませんが、ホテルの受付係に興味があります。そして、あと2つは、店員になることと、花屋で働くことです。

日本語をどのように活かしたいかという、もちろん、人と話せるようにになりたいです。そのため、私が選んだ仕事には、人と話すことが大事なものが多
いです。

これからやらないといけないことの中で、いちばん大事なのは、やはり日本語を理解する力をつけ、日本語で話せるようになることです。それが今の目標です。そして将来は、日本語をすらすら話せるようになって、皆に頼られる人になりたいです。